

橘町の見どころ

まちの歴史シリーズ 39

橘町HP <https://tachibana-net.jp>

歴史・史跡をクリック

発行：橘町まちづくり推進協議会

ふるさと部会

発行日：令和7年10月1日

責任者：吉野 勝美

原稿作：宮下 正博

事務局：橘公民館 22-3884

今月号の案内者は

くちょう みやした まさひろ
納手区長 宮下 正博さん

きんなり かまくら
公業さん鎌倉での話ばっかいで、
ま～だ、橘に来んしゃれん
のう。

おまけに、2ヶ月も、水の話題やった
けん、もう、前回分バ忘れようバイ

きんなり
今月号は**橘公業**さんが、女をめぐつ
て争う場面らしかバイ！！
タッパ君とミサエちゃん、よろしく。



忘れたろうケン、あらすじね

今から800年前（鎌倉時代）のこと
橘町の主人公、**公業が鎌倉で活躍！！**

注）公業推定年齢は参戦時を元服年齢として
計算しています

- 1180年8月 頼朝挙兵 ・・・ 30号
- 同年12月 ・・・ 32号
- 橋公長親子が頼朝軍に参戦 15歳
- 1184年 19歳
屋島合戦で公業が讃岐の武士団を率いる
- 1185年 20歳
平家滅亡後、父の公長が敵大将の処刑を命じられる ・・・ 以上 33号
- 1189年 24歳
奥州合戦へ出陣
- 1190年 25歳
その後、兼任の乱で戦う ・・・ 以上 34号
- 1193年 28歳
曾我兄弟の仇討ち後、頼朝に弟範頼が疑わ
れて、公業の兄が討たれる ・・・ 36号
- 1195年 30歳
瀬田の唐橋で男を上げる ・・・ 37号
- 1199年 頼朝死去（3年分吾妻鑑欠落）
- 1203年 頼家出家、実朝が継ぐ
- 1209年 44歳

隣家、美作と騒動

・・・ 今月号

●登場する人



主人公・公業さん



美作朝親



瀬戸康史
さんが演
じた人

北条時房

和田義盛

●今回から公業さんが少し年をとりました

★ エピソード その⑦ 美作朝親と争う

今回は、ちょっとつやっぽい話ダヨ

① 公業と美作朝親が、とつぜん争いを始める

2人の家は、通りを挟んで向かい合わせ。ある
日、それぞれの縁者が集まって、今にも戦い
が始まろうとしているところ。



だれが
集まっ
たの？



軍事担当の和田義盛は、仲間だからと
すでに公業方に。美作方には、武田や
小笠原がついていたんだよ。



② 将軍実朝は驚いて北条時房を送り込む

で、どうなったの？

時房が調べた結果、一度はおさまった
んだけど・・・。裏へつづく

でもさ、何で争いになったの?



④じつは、美作の妾女が、夜になって向かいの公業の門に消えていった・・・

③こんなきっかけがあつた・・・

奥さんは日頃から公業と浮氣していたとバイ。知らんとはあんただけタイ

見てあれ! 恋の仇、成敗してやるッ!!

⑤源実朝が北条時房に命じて調べたところ (注) 時房は義時の弟



彼女は美作の女に間違ひなし。チャンと美作のもとに帰しなさい

⑥公業は



私にも言いたいことはあるが、将軍様が帰せとおっしゃるなら..帰しましょう

⑧美作は「おのれ!」

公業めッ!
こんどこそ許さん!!



表の騒動は、こうして始まったのです。
源実朝将軍は、大変心配して、騒動の現場に時房をやって、騒動をおさめさせました



⑨両者は仲直り

今は、もう文句はあいません

私も依存ござらぬ

⑩吾妻鑑にはここまでが書かれています。ところが話には続きがありそうで・・・

武雄市歴研究会会報誌
「湯か里」第77号
に、花田晴年さんが書かれていますので、簡単に紹介します

⑪北条義時は..

「この度の騒動の非は、公業にあり、しかも再び奥方が逃げたのは、示し合わせたに違いない。
公業を罰すべき」と将軍に告げた。

⑫和田義盛が将軍に言う

私にお任せあれ。
公平に仲裁して見せましょう



⑭解説

美作に向かって和田義盛が述べる言葉は痛快に続きますが、詳しくは77号を読んでください。この記事は、『大江伝記・鎌倉和田軍記』という鎌倉の五劫寺に残っていた古文書を翻刻したものだそうです。公業と朝親の騒動から始まり、和田義盛が北条義時の策謀にかかって滅ぼされるまでの記録です。北条氏の支配が強まる中、頼朝に近い古参が肅清されていき、和田氏も暴発するのですが、義盛とも近かった公業がそのきっかけとして描かれています。

いっちょん、あん人の顔ばみとうなか!!

それをみて、たちの悪い男が面白半分に、告げ口をしたのだった

⑦それで、女はまたも行方知れずに



やっぱり、この人とはいやだワ!!

よしもり みまさか
⑬和田義盛が美作に向かって

「鎌倉中を巻き込んで騒動を起こしたのは、お前の妾女のせいだ。それ故責任はお前にある。公業の所にいたと言うが、奥方ではない。しかも他人の尊になっているなら、穏便に済ませるべき。なのに、その女に恋狂い、奥方を離縁しようと言えした」云々